

I 調査結果の概要

1 花きの栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

- (1) 切り花類の栽培農家数は7万2,900戸で、前年産に比べて1,600戸（2%）減少した。作付面積は1万8,650haで、前年産に比べて400ha（2%）減少した。出荷量は53億100万本で、前年産に比べて1億1,200万本（2%）減少した。
- (2) 球根類の栽培農家数は2,070戸で、前年産に比べて230戸（10%）減少した。収穫面積は703haで、前年産に比べて75ha（10%）減少した。出荷量は2億350万球で、前年産に比べて3,660万球（15%）減少した。
- (3) 鉢ものの類の栽培農家数は9,480戸で、前年産に比べて170戸（2%）減少した。収穫面積は2,191haで、前年産並みであった。出荷量は3億1,950万鉢で、前年産並みであった。
- (4) 花壇用苗ものの類の栽培農家数は7,160戸で、前年産に比べて120戸（2%）減少した。作付面積は1,740haで、前年産に比べて28ha（2%）減少した。出荷量は8億7,280万本で、前年産に比べて2,980万本（3%）減少した。

表1 平成15年産花きの類別栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量

類 別	栽培農家数 戸	作付(収穫) 面積	出 荷 量	前 年 産 対 比		
				栽培農家数	作付(収穫) 面積	出 荷 量
切 り 花 類	72 900	18 650	530 100	98	98	98
球 根 類	2 070	703	20 350	90	90	85
鉢 も の 類	9 480	2 191	31 950	98	100	100
花 壇 用 苗 も の 類	7 160	1 740	87 280	98	98	97

2 類別・品目別の栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

栽培農家数は7万2,900戸で、前年産に比べて1,600戸（2%）減少した。

作付面積は1万8,650haで、前年産に比べて400ha（2%）減少した。品目別にみると、スプレーぎくを除くすべての品目で減少した。

出荷量は53億100万本で、前年産に比べて1億1,200万本（2%）減少した。

なお、出荷量における品目別の構成割合をみると、きくが36%で最も高く、次いでカーネーションが9%、ばらが8%、ゆり、ガーベラが4%の順となっている。

図1 切り花類の出荷量の品目別構成割合

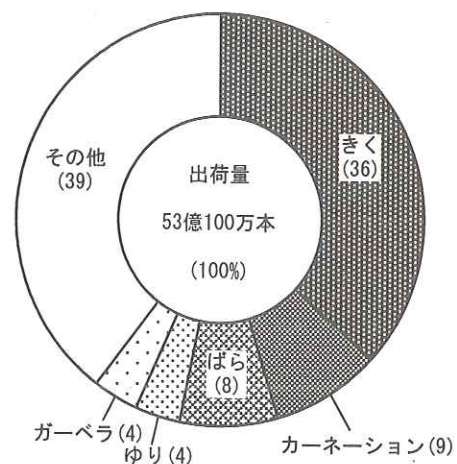


表2 平成15年産切り花類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

単位 { 作付面積 : ha
出 荷 量 : 万本
前年産対比 : %

品 目	栽 培 農家数	作 付 面 積	出 荷 量	前 年 産 対 比			(参考) 1戸当たり	
				栽 培 農家数	作 付 面 積	出 荷 量	作 付 面 積	出 荷 量
切 り 花 類	72 900	18 650	530 100	98	98	98	2 560	72 700
うち、きく	…	5 955	194 000	…	98	99	…	…
輪 ぎ 類	11 000	3 425	112 700	94	98	98	3 110	102 400
スプレイぎく	3 930	791	28 150	95	102	103	2 010	71 600
小 ぎ 類	13 000	1 740	53 100	97	98	99	1 340	41 000
カーネーション	2 600	450	46 110	97	99	99	1 730	177 100
ばら	1 910	540	41 420	96	98	95	2 830	217 200
りんどう	2 340	508	9 470	96	92	92	2 170	40 400
宿根かすみそう	2 010	355	8 090	90	95	95	1 760	40 200
洋ラン類	1 310	207	2 690	98	97	94	1 580	20 600
スターチス	3 290	248	12 670	96	96	102	756	38 600
ガーベラ	561	105	18 740	96	96	100	1 880	334 000
トルコギキョウ	5 180	459	12 040	97	98	98	887	23 300
球根切り花	…	2 016	55 500	…	97	96	…	…
ゆり	4 850	892	19 260	96	98	95	1 840	39 800
チューリップ	905	98	8 000	89	95	96	1 090	88 400
アルストロメリア	763	105	7 230	93	94	97	1 380	94 700
その他球根切り花	6 120	921	21 010	83	96	97	1 510	34 400
切 り 葉	4 190	728	17 850	98	99	101	1 740	42 600
切 り 枝	16 300	4 312	25 830	100	98	99	2 650	15 900

注：1 きくの作付面積及び出荷量は、輪ぎく、スプレイぎく及び小ぎくの合計値であり、栽培農家数（実戸数）については調査していない。

2 球根切り花の作付面積及び出荷量は、ゆり、チューリップ、アルストロメリア及びその他球根切り花の合計値であり、栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

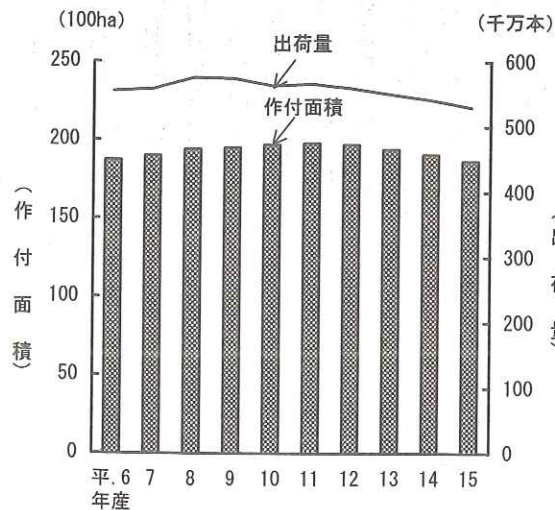
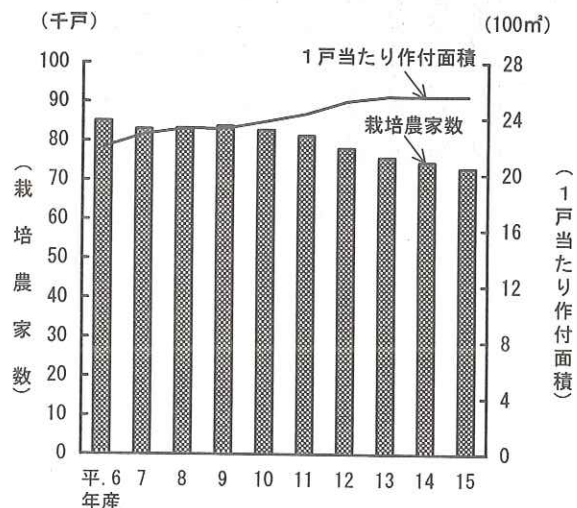


図3 切り花類の栽培農家数等の推移



ア きく

作付面積は5,955haで、前年産に比べて99ha（2%）減少した。これは、輪ぎく及び小ぎくが静岡県等で規模縮小等により減少したためである。

出荷量は19億4,000万本で、前年産に比べて2,400万本（1%）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、愛知県が28%で最も高く、次いで沖縄県が15%、鹿児島県が8%の順となっている。

また、出荷量の品目別構成割合をみると、輪ぎくが58%で最も高く、次いで小ぎくが27%、スプレイぎくが15%となっている。

図4 きくの出荷量の都道府県別構成割合

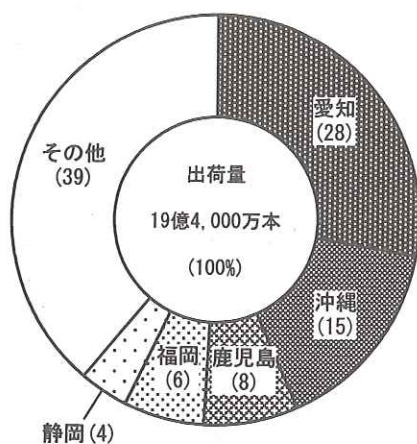


図5 きくの出荷量の品目別構成割合

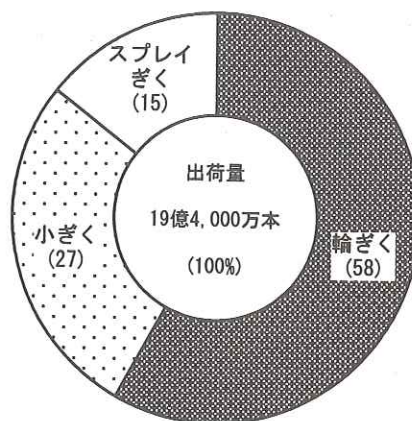


図6 きくの作付面積と出荷量の推移

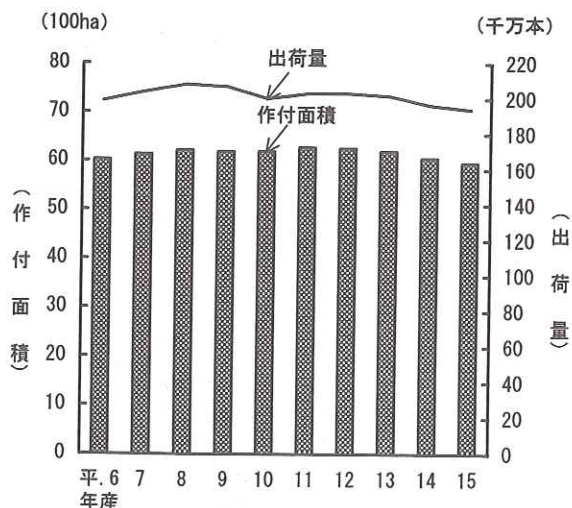


図7 輪ぎくの栽培農家数等の推移

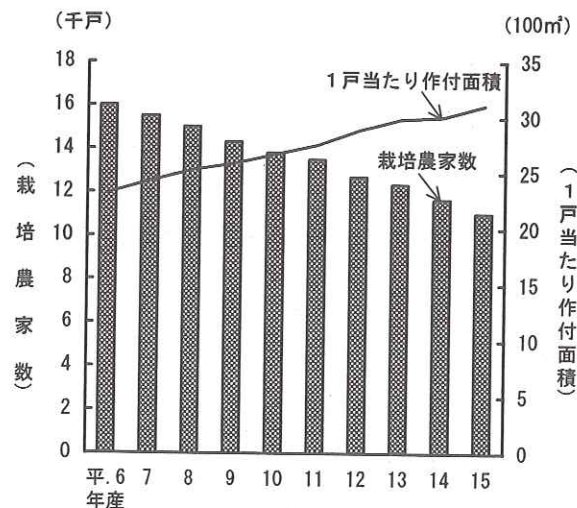


図8 スプレイぎくの栽培農家数等の推移

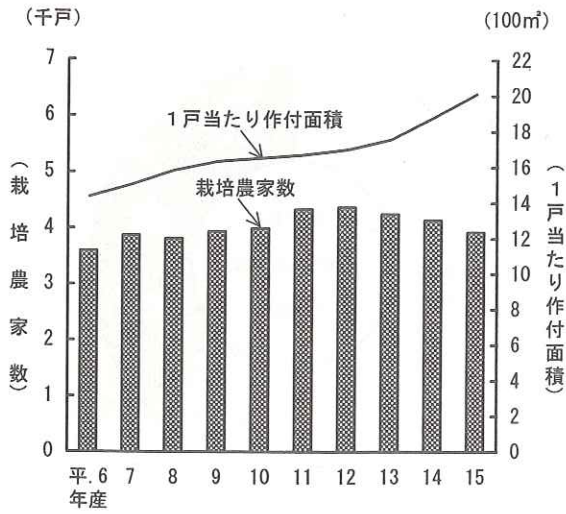
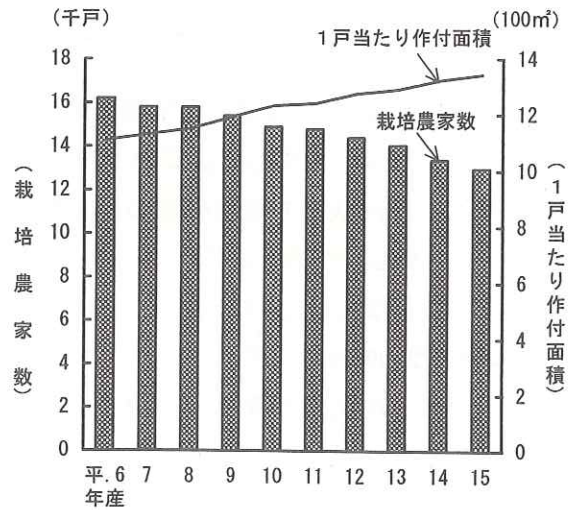


図9 小ぎくの栽培農家数等の推移



イ カーネーション

栽培農家数は2,600戸で、前年産に比べて80戸（3%）減少した。

作付面積は450haで、前年産に比べて3ha（1%）減少した。

出荷量は4億6,110万本で、前年産に比べて240万本（1%）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、長野県が20%で最も高く、次いで愛知県が16%、兵庫県が10%の順となっている。

図10 カーネーションの出荷量の都道府県別構成割合

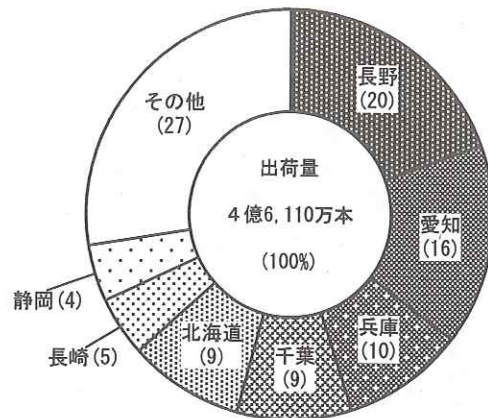


図11 カーネーションの作付面積と出荷量の推移

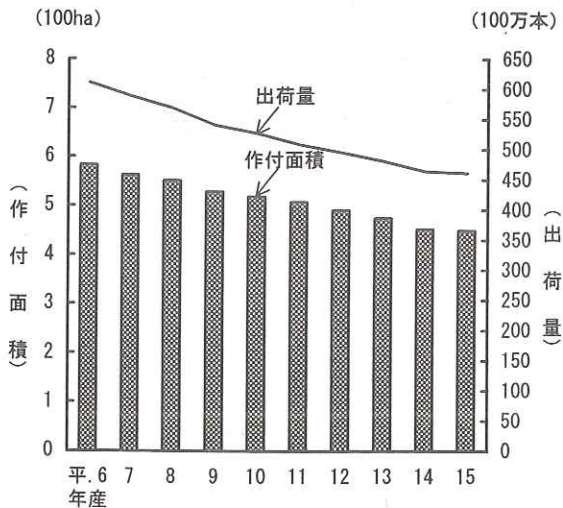
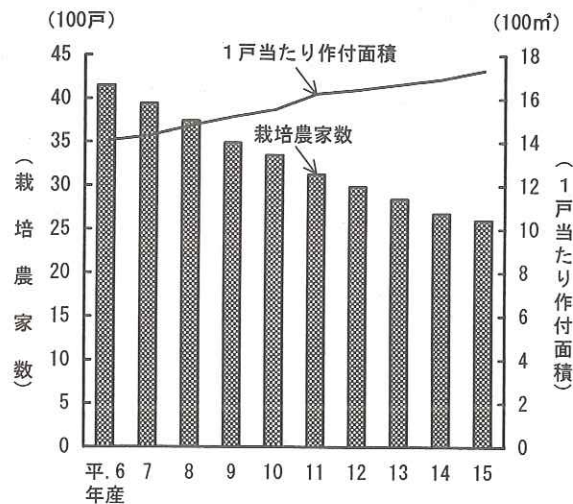


図12 カーネーションの栽培農家数等の推移



ウ ばら

栽培農家数は1,910戸で、前年産に比べて90戸（4％）減少した。

作付面積は540haで、前年産に比べて11ha（2％）減少した。これは、長野県、和歌山県等で栽培農家の減少等に伴い減少したためである。

出荷量は4億1,420万本で、前年産に比べて2,090万本（5％）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、愛知県が14％で最も高く、次いで静岡県が11％、福岡県が7％の順となっている。

図13 ばらの出荷量の都道府県別構成割合

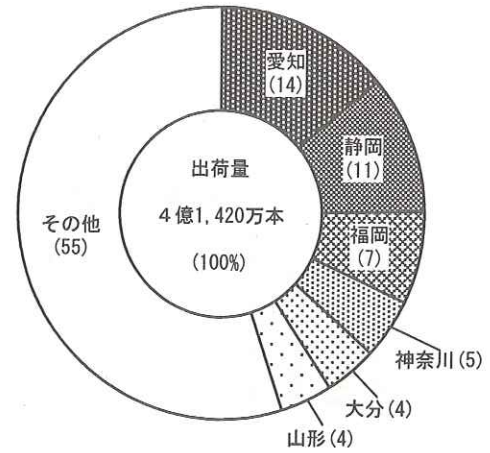


図14 ばらの作付面積と出荷量の推移

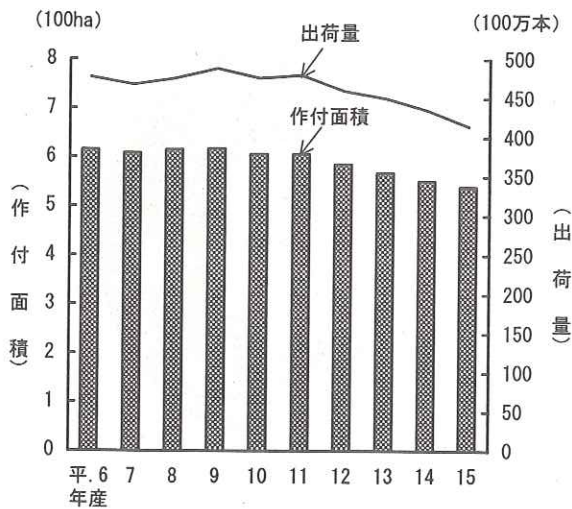
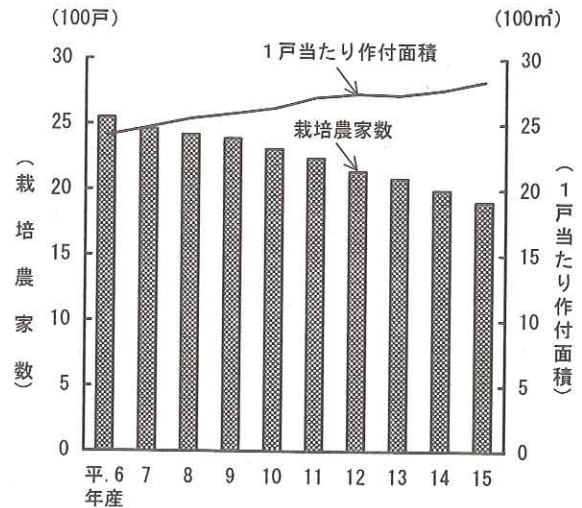


図15 ばらの栽培農家数等の推移



エ ゆり

栽培農家数は4,850戸で、前年産に比べて190戸（4％）減少した。

作付面積は892haで、前年産に比べて88ha（2％）減少した。これは、鹿児島県等で他品目への転換があったためである。

出荷量は1億9,260万本で、前年産に比べて1,040万本（5％）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、埼玉県が13％で最も高く、次いで新潟県、高知県が11％、鹿児島県が9％の順となっている。

図16 ゆりの出荷量の都道府県別構成割合

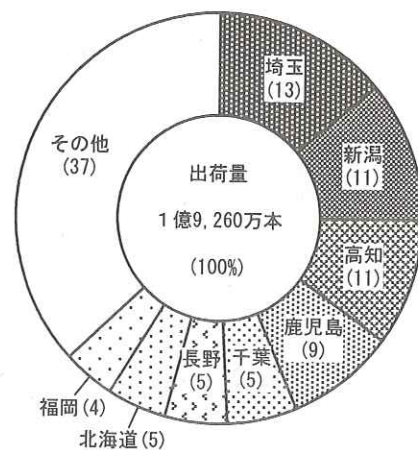


図17 ゆりの作付面積と出荷量の推移

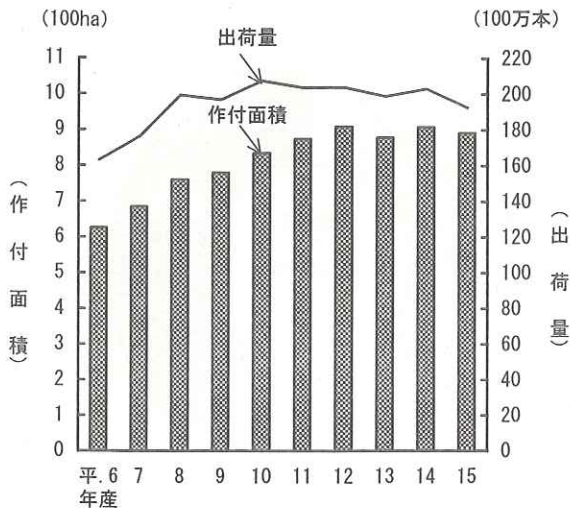
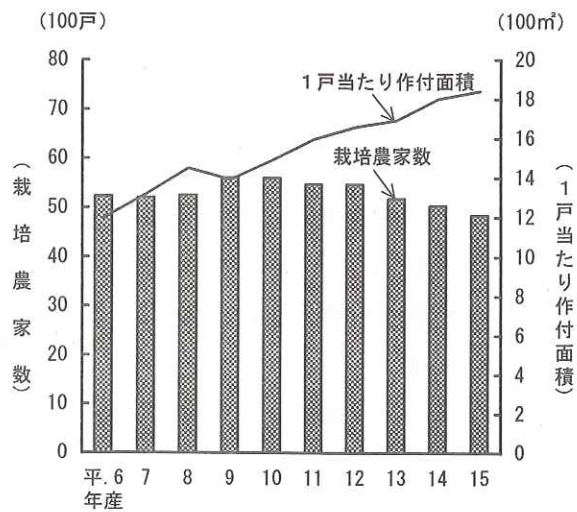


図18 ゆりの栽培農家数等の推移



(2) 球根類

栽培農家数は2,070戸で、前年産に比べて230戸（10%）減少した。

収穫面積は703haで、前年産に比べて75ha（10%）減少した。品目別にみると、チューリップ、ゆり及びグラジオラスが減少した。

出荷量は2億350万球で、前年産に比べて3,660万球（15%）減少した。

表3 平成15年産球根類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

単位 { 収穫面積 : ha
出 荷 量 : 万球
前年産対比 : %

品 目	栽培農家数	収穫面積	出 荷 量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	収穫面積	出荷量	収穫面積 (m²)	出荷量 (球)
球 根 類	2 070	703	20 350	90	90	85	3 390	98 200
うち、ゆり	643	141	2 620	90	84	81	2 190	40 700
チューリップ	534	318	6 040	91	87	78	5 960	113 000
グラジオラス	289	46	2 570	89	94	79	1 610	88 900

図19 球根類の収穫面積と出荷量の推移

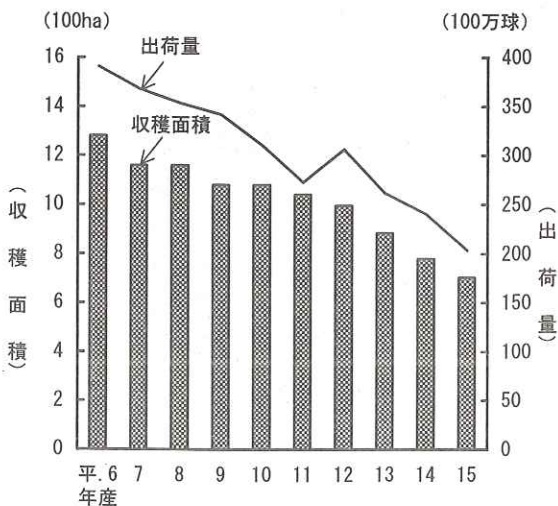
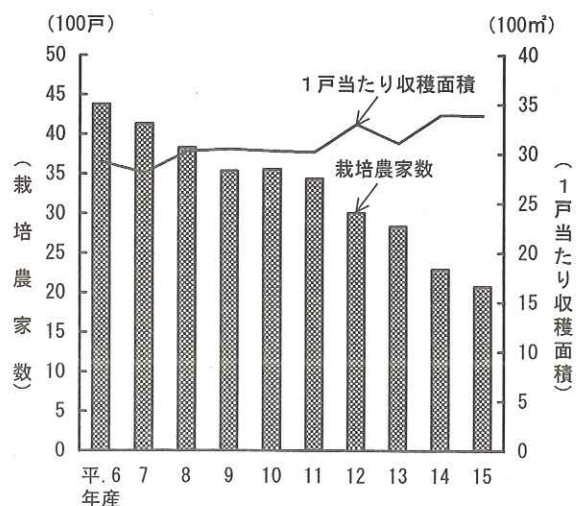


図20 球根類の栽培農家数等の推移



ア ゆり

栽培農家数は643戸で、前年産に比べて70戸（10%）減少した。

収穫面積は141haで、前年産に比べて26ha（16%）減少した。これは、鹿児島県、北海道等で規模縮小等があったためである。

出荷量は2,620万球で、前年産に比べて600万球（19%）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、鹿児島県が34%で最も高く、次いで宮崎県が31%、新潟県が20%の順となっている。

図21 ゆりの出荷量の都道府県別構成割合

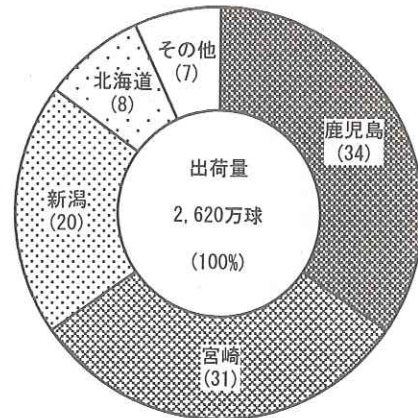


図22 ゆりの収穫面積と出荷量の推移

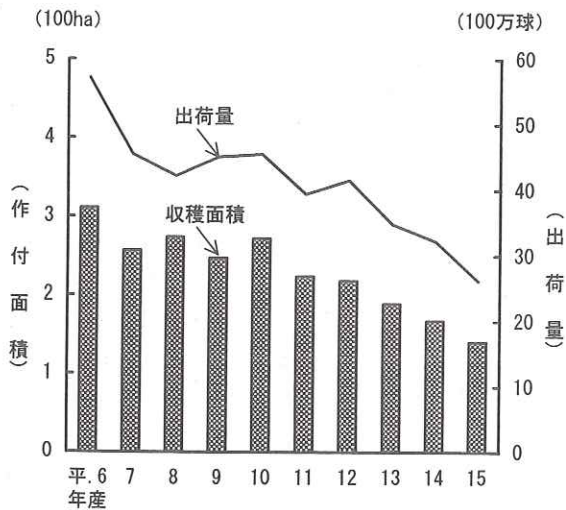
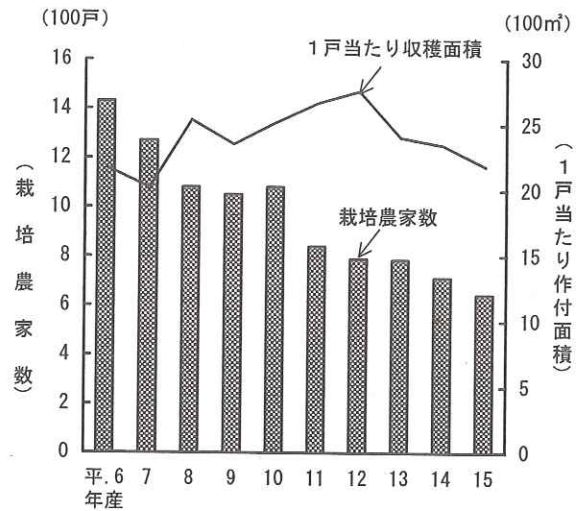


図23 ゆりの栽培農家数等の推移



イ チューリップ

栽培農家数は534戸で、前年産に比べて55戸（9%）減少した。

収穫面積は318haで、前年産に比べて47ha（13%）減少した。これは、富山県及び新潟県で栽培農家の減少等に伴い減少したためである。

出荷量は6,040万球で、前年産に比べて1,740万球（22%）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、湿害、微斑モザイク病や球根腐敗病の多発等によるものである。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、富山県及び新潟県で全国の98%を占めている。

図24 チューリップの出荷量の都道府県別構成割合

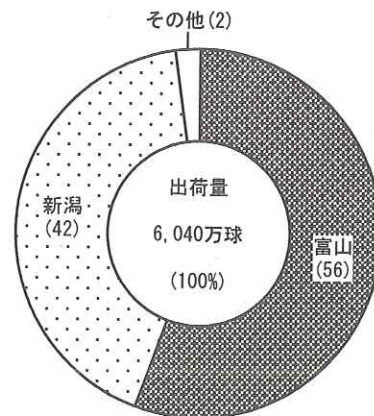


図25 チューリップの収穫面積と出荷量の推移

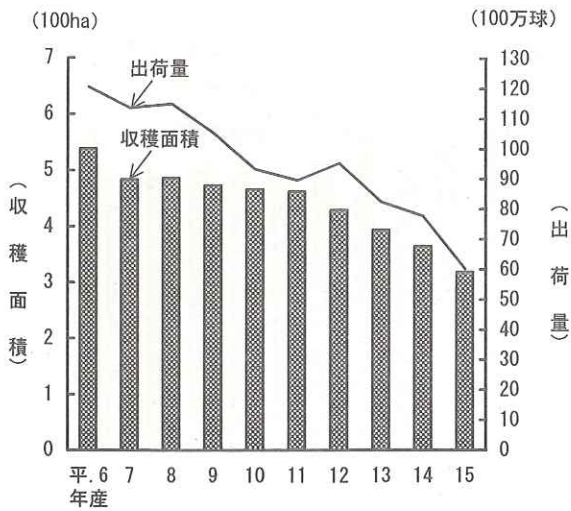
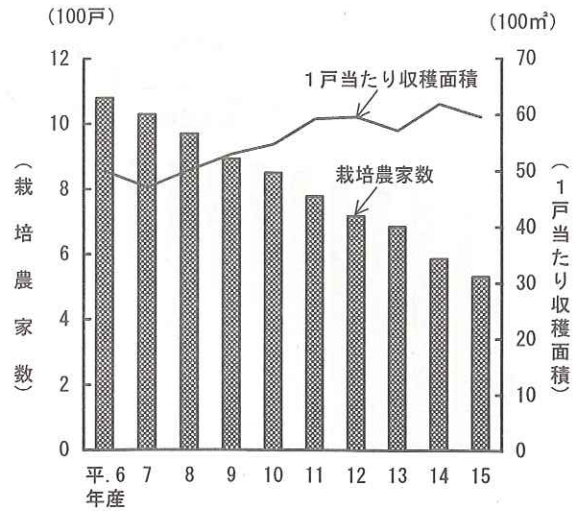


図26 チューリップの栽培農家数等の推移



(3) 鉢ものの類

栽培農家数は9,480戸で、前年産に比べて170戸（2%）減少した。

収穫面積は2,191haで、前年産並みであった。品目別にみると、洋ラン類が増加し、シクラメンが前年産並みであったが、花木類、観葉植物等が減少した。

出荷量は3億1,950万鉢で、前年産並みであった。

表4 平成15年産鉢ものの類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

単位 { 収穫面積 : ha
出荷量 : 万鉢
前年産対比 : %

品目	栽培農家数	収穫面積	出荷量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	収穫面積	出荷量	収穫面積	出荷量
鉢ものの類	9 480	2 191	31 950	98	100	100	2 310	33 700
うち、シクラメン	1 870	243	2 280	100	100	100	1 300	12 200
プリムラ類	1 000	70	1 560	96	99	87	701	15 600
洋ラン類	...	292	2 330	...	102	95
シンビジウム	577	103	401	93	95	92	1 780	6 950
デンドロビウム	263	34	359	104	108	92	1 300	13 700
その他の洋ラン類	1 140	155	1 570	98	105	96	1 360	13 800
サボテン及び多肉植物	426	70	2 180	100	99	97	1 640	51 300
観葉植物	1 600	365	5 560	100	99	99	2 280	34 700
花木類	2 830	465	5 900	95	98	99	1 640	20 800

注：洋ラン類の収穫面積及び出荷量は、シンビジウム、デンドロビウム及びその他の洋ラン類の合計値であり、栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図27 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移

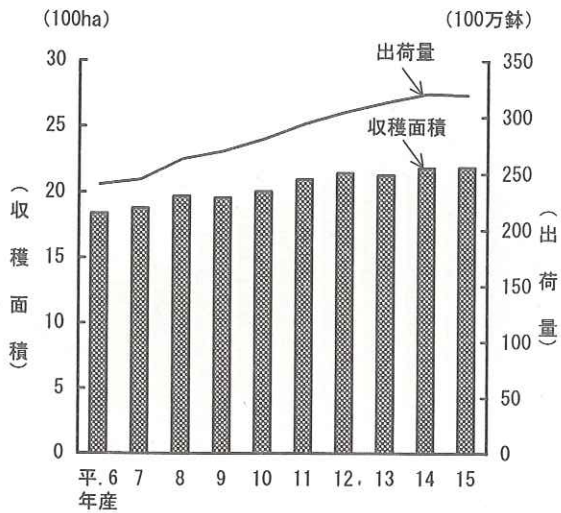
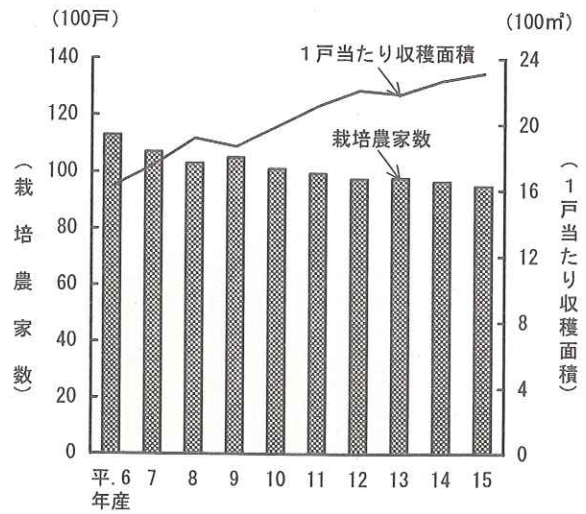


図28 鉢ものの類の栽培農家数等の推移



ア シクラメン

栽培農家数は1,870戸で、前年産並みであった。

収穫面積は243haで、前年産並みであった。

出荷量は2,280万鉢で、前年産並みであった。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、愛知県が14%で最も高く、次いで長野県が13%、岐阜県が6%の順となっている。

図29 シクラメンの出荷量の都道府県別構成割合

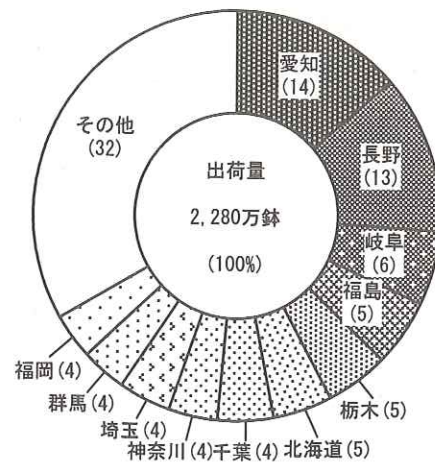


図30 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移

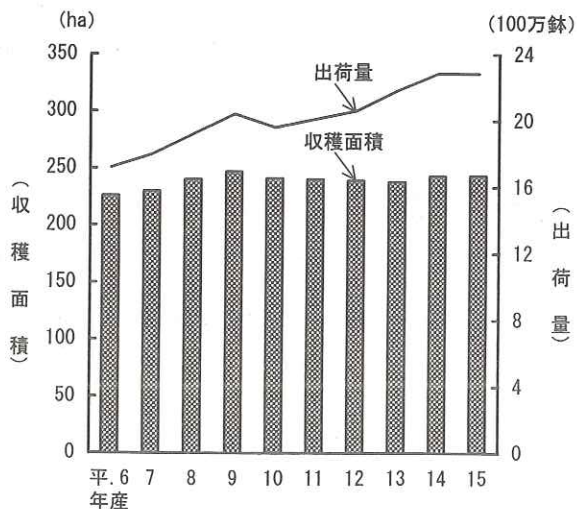
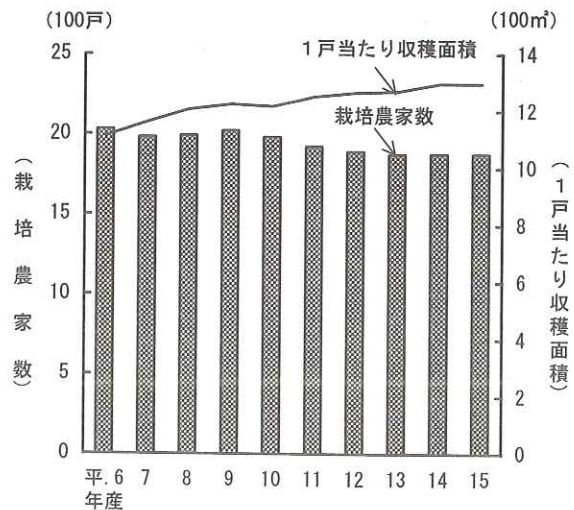


図31 シクラメンの栽培農家数等の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は292haで、前年産に比べて5ha（2%）増加した。これは、デンドロビウム等が愛知県等で栽培農家の増加等に伴い増加したためである。

出荷量は2,330万鉢で、前年産に比べて130万鉢（5%）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、愛知県が32%で最も高く、次いで福岡県が11%、静岡県、宮崎県が6%の順となっている。

また、出荷量の品目別構成割合をみると、シンビジウムが17%、デンドロビウムが15%となっている。

図32 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移

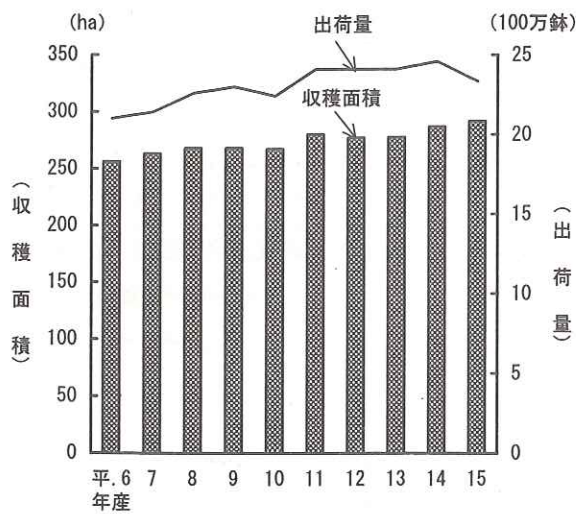


図33 洋ラン類の出荷量の都道府県別構成割合

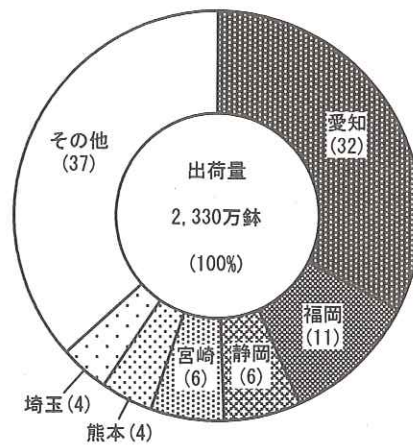


図34 シンビジウムの栽培農家数等の推移

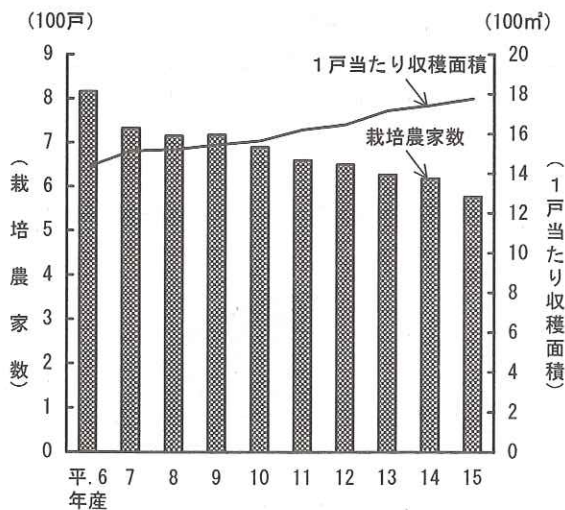
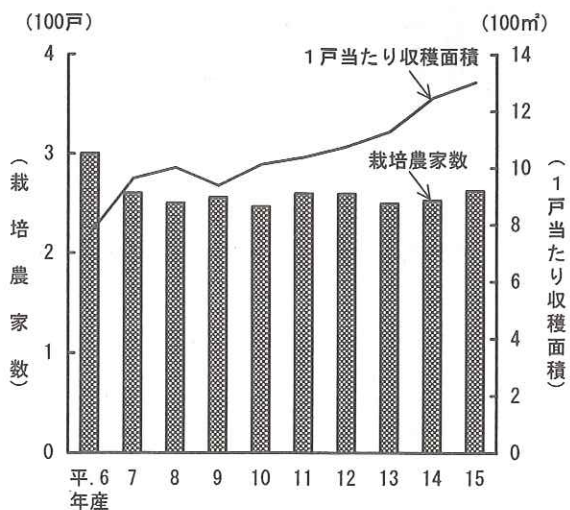


図35 デンドロビウムの栽培農家数等の推移



(4) 花壇用苗もの類

栽培農家数は7,160戸で、前年産に比べて120戸（2%）減少した。

作付面積は1,740haで、前年産に比べて28ha（2%）減少した。品目別にみると、サルビアは増加したが、パンジー、ペチュニア及びマリーゴールドが減少した。

出荷量は8億7,280万本で、前年産に比べて2,980万本（3%）減少した。

表5 平成15年産花壇用苗もの類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

品目	栽培農家数	作付面積	出荷量	前年産対比			(参考) 1戸当たり	
				栽培農家数	作付面積	出荷量	作付面積	出荷量
花壇用苗もの類	7 160	1 740	87 280	98	98	97	2 430	121 900
うち、パンジー	4 130	359	20 860	98	96	95	869	50 500
サルビア	2 230	70	3 040	99	101	99	312	13 700
マリーゴールド	2 450	90	4 060	98	97	99	369	16 600
ペチュニア	2 230	106	5 420	100	91	86	476	24 300

単位 { 作付面積 : ha
出荷量 : 万本
前年産対比 : %

図36 花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移

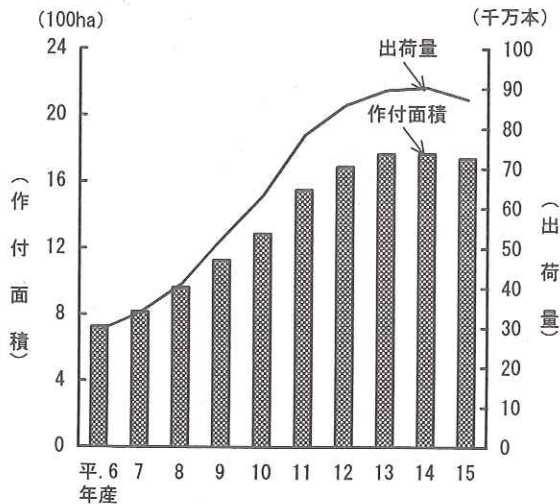
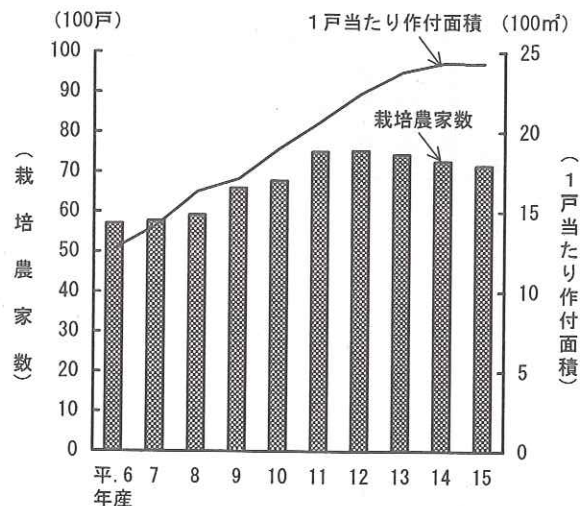


図37 花壇用苗もの類の栽培農家数等の推移



ア パンジー

栽培農家数は4,130戸で、前年産に比べて80戸（2%）減少した。

作付面積は359haで、前年産に比べて14ha（4%）減少した。これは、兵庫県等で他品目への転換等があったためである。

出荷量は2億860万本で、前年産に比べて1,150万本（5%）減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、愛知県が8%で最も高く、次いで千葉県が6%、埼玉県、神奈川県が5%の順となっている。

図38 パンジーの出荷量の都道府県別構成割合

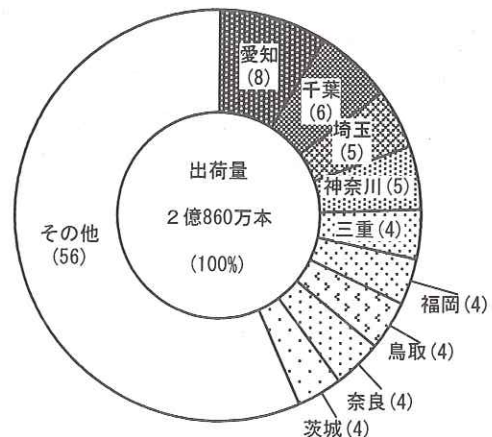


図39 パンジーの作付面積と出荷量の推移

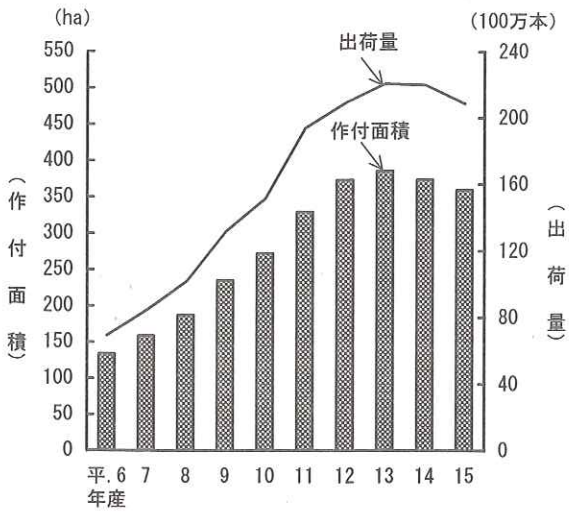
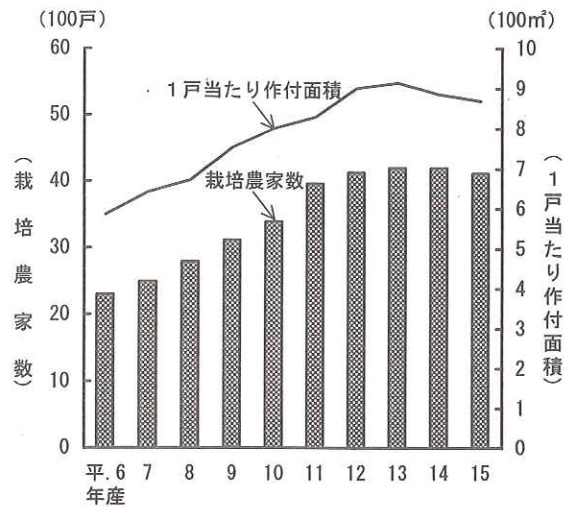


図40 パンジーの栽培農家数等の推移



イ ペチュニア

栽培農家数は2,230戸で、前年産並みであった。

作付面積は106haで、前年産に比べて11ha (9%) 減少した。これは、栃木県等で規模縮小等があったためである。

出荷量は5,420万本で、前年産に比べて880万本 (14%) 減少した。

なお、出荷量の都道府県別構成割合をみると、千葉県が11%で最も高く、次いで埼玉県、兵庫県が7%、愛知県が5%の順となっている。

図41 ペチュニアの出荷量の都道府県別構成割合

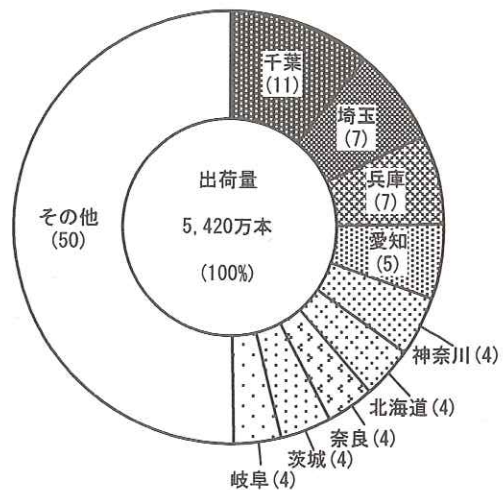


図42 ペチュニアの作付面積と出荷量の推移

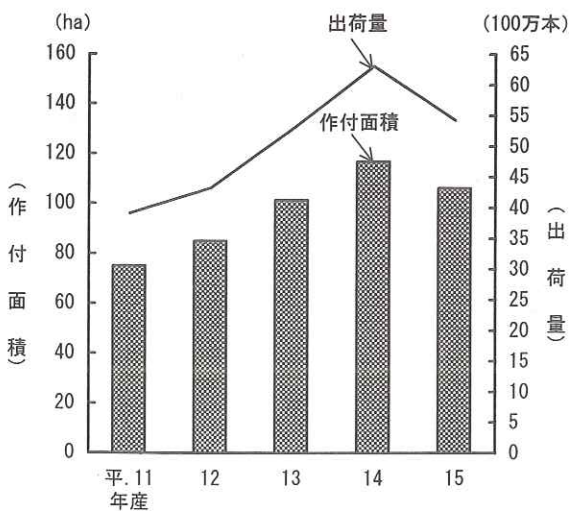


図43 ペチュニアの栽培農家数等の推移

